

軸組+2×4トラスで非住宅開拓

平行弦トラスで追加評定

ランバーテック

プレカット事業者と連携して全国に普及することを目指す。

2×4コンポーネント大手のランバーテック(埼玉県蕨市、斉藤一男社長)は、木造軸組工法の構造躯体に2×4工法のトラス小屋組を組み合わせた新工法「LID工法」で、非住宅需要の開拓に乗り出す。このほど、従来の三角トラスに平行弦トラスなどを追加し、ベタリビングの舗などに多い陸屋根などの緩やかな勾配で10以上の大スパンに対応できるようにした。自社で製造・販売するとともに、各地の軸組

2×4トラスは安価な材料で簡単に大空間を確保できるのが特徴だが、従来は軸組工法の小屋組として活用する場合は構造計算手法がグレー本(「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」)になく、火打ち材や小屋梁などを置いて屋根構面の水平剛性を確保しなければならなかった。同社はものつくり大学と共同で、明確でなかったトラスの小屋組の床倍率を実験で明らかにし、トラスだけで水平剛性を確保できるようにした。

9・11のシザーズトラスを使った住居兼バレエ教室



の仕様で1したりすることもでき・65×1・る。

同社が取得した評定コストと施工手間を削減できる。外周部だけならトラスまで自社では、5寸勾配の屋根の床倍率は、野地板面で垂直荷重を担保でき貫供給できる。まずはに構造用合板12ミ、水れば、柱のない大空間平面に強化石膏ボードも可能。梁や野縁が不86倍、普通石膏ボードたり、軒の高さを低く図っていく。

79倍、天井 だが、非住宅など10面なしで1 前後の大スパンで活用する場合は、三角形のトラスでは勾配がきつ44倍。 火打ち材 くなり、陸屋根が多いや小屋梁な 店舗などでは利用しにどを必要と 上がった。両側から立せず、トラス ち上がる平行弦トラスの下の弦材 を活用できれば、緩やかに直接石膏 かな勾配で大スパンをボードを施 実現できる。

工できるた 同社は2×4コンポーネント事業のほか、金物工法プレカットも手掛けており、躯体からトラスまで自社で一貫供給できる。まずは自社で需要を開拓するほか、協力工場を募りながら全国への普及を